

平成 23 年 4 月 19 日

銅建値 4 万円下げの 83 万円へ

欧州財政不安の再燃などで LME 相場が急落

15 日、国内銅建値が改定された。前回（12 日）比^キ 40 円下げの^キ 830 円、月間推定平均価格は^キ 840.5 円に下落した。国際指標である LME の急落に伴って建値も引き下げられた。

現地 14 日の LME は欧州株式の下落を反映して続落。米新規失業保険申請件数が節目とされる 40 万件を上回り 2 ヶ月振りの水準まで悪化したことや、財政再建中のギリシャで債務再編が必要になる可能性が出たとの見方が広まり、欧州財政への懸念が再燃したことが嫌気された。中国では追加利上げ観測への警戒感から上海有色金属市場が連日下落しており、非鉄金属への投機意識が低下の一途をたどっている。

LME 銅価格の 3 月平均値は 9,530.7 ドルで、今月は 8 日に 9,823 ドルの高値をつけた以後は急落。現地 14 日には 9,326.5 ドルまで下がり、3 月の平均値とほぼ同水準になった。為替相場も徐々に円高に傾いているため、国内建値も月初の^キ 830 円に戻された格好だ。

黄銅ドライ粉建値も改定された。日本伸銅の発表によると、前回（12 日）比^キ 28 円下げの 554 円に下落。銅建値の改定を受け、スクラップ相場は銅系で 30～32 円、真鍮系で 22～24 円、砲金系で 26～28 円程度の値下がりが見込まれる。主な品種の市中実勢価格は 1 号銅線が 705～725 円、上銅新屑が 695～705 円、2 号銅線が 635～645 円、並銅が 625～635 円程度となっている。

震災の影響で荷動きが低下しているところへの建値下落で、問屋筋は買値をどう定めるか頭を悩ませている。「1 号銅線だけは高値で買うようにしている」（都内の大手問屋）など、月半ばの不安定な相場で難しい対応での商いが続きそうだ。

【日刊市況通信 平成 23 年 4 月 13 日掲載】